

中部産業遺産研究会 会報 第49号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage

新年あけましておめでとうございます。

本年もよろしくお願い致します。

目次

・第120回 定例研究会の開催について	1
・第8回「2012年度 パネル展」と講演会の開催について	1
・第119回 定例研究会の報告	藤田秀紀 2
・産業考古学会 2012年度新居浜大会に参加して	寺沢安正 4
・15th TICCIH CONGRESS 2012 in Taiwan に参加して	石田正治 5
・台湾で開かれた TICCIH 本会議に参加して	大橋公雄 7
・お知らせ	9

・第120回 公開定例研究会の開催について

第120回例会は、下記の「パネル展講演会」に続いて、公開定例研究会として行ないます。

開催日時：2013/01/27(日) 16:00～17:00

開催場所：名古屋都市センター 南金山ビル11F 大研修室

内 容：報告「待望の水、水路を走る～竣工100周年を迎える近代化遺産金山揚水～」
小西恭子（豊田市近代の産業とくらし発見館）

研究報告、調査報告、保存問題、資料紹介など

シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第31回の案内

・第8回「2012年度 パネル展」と講演会の開催について

「名古屋のまちづくりを支えた鉄道網」

1．パネル展

開催日：2013/01/22(火)～02/03(日)

開催場所：名古屋都市センター 南金山ビル11F まちづくり広場・企画展示コーナー

2．講演会

開催日時：2013/01/27(日) 13:00～16:00

開催場所：名古屋都市センター 南金山ビル11F 大研修室

特別講演：「名古屋の鉄道～昔・今・これから～」 須田 潤氏（JR東海相談役）

報告：「名古屋電略史」 藤井 建

報告：「鉄道の歴史が見える散策路」 山田 貢

講演会は先着順で入場無料です。定員（120名）になり次第聴講をお断りします。あしからずご了承ください。詳しくは、チラシをご覧ください。

・第 119 回 定例研究会の報告

司会（市野清志）・記録（藤田秀紀）参加：27 名
場所：名城大学名駅サテライト・会議室、開催日：2012/11/25（日）

13:00

司会者より議事の進め方について説明。

新会員紹介

福井義光会員、神田年浩会員とも本日欠席のためなし。

1．研究報告、調査報告

[119-11-01] 産業遺産の見方・調べ方「日本の真空管ラジオ」 渡辺治男

これまでの真空管がらみの話の続編として今回は、日本の据置型ラジオの製造時期を推定する手法について報告があった。この手法は報告者が調査した外形形状、ケース材質、ダイヤル機構、電源、検波方式、真空管種、球数、ブランド名、型式認定制度に着目している。

[119-11-02] 「中部地方工業学校の歴史」 水野信太郎

中部地区旧制高等工業高等学校、旧制工業学校、工業高等専門学校、新制工業高校の歴史と出身者の紹介。昔と今とでは工業高校についての考え方が大きく異なる。

[119-11-03] 「今、中川運河に何が起きているか!!」 柳田哲雄

かつて物流の大動脈・中川運河の特徴、諸元、活躍、現状について説明された。名古屋港の整備により減少する沖荷役。松重閘門 名古屋市有形文化物となる。

現在の中川口閘門というは橋。名古屋駅遠景。真珠の増殖。ドラゴンボート大会。水上スポーツ。泥の河。小栗氏。中川運河再生計画。にぎわいゾーンの未来。現状水質悪い。中川運河の水循環は、海より低くなる時もあり掘川に海水をまわす。

2．その他の諸報告、保存問題など

[119-21-01] 「TICCIH in 台湾 11/04-08 本会議」 石田正治

5 頁からの「 . 15th TICCIH CONGRESS 2012 in Taiwan に参加して」に詳しく書かれています。

[119-21-02] 「TICCIH in 台湾 11/09-11 台湾南部の産業遺産見学」 大橋公雄

7 頁からの「 . 台湾で開かれた TICCIH 本会議に参加して」の後半に、写真を添えて書かれています。

3．研究誌、会報（研究会ニュースレター）

[119-31-01] 研究誌『産業遺産研究第 20 号』について

浅野伸一会員が欠席のため説明なし。

[119-31-02] 会報ニュースレター電子メール版の原稿募集

よろしくをお願いします。

4．シンポジウム

[119-41-01] シンポジウム「日本の技術史をみる眼」第 31 回（案）

テーマ：技術史を捉えなおす「もう一度日本の技術史をみる」

開催日：2013/03/24（日）13:00～16:00、シンポの後は定例研究会を予定

場 所：名城大学名駅サテライト・多目的室

講 師：黒田光太郎（名城大学大学院教授）報告：研究会会員 1～2 名

技術史についての論文原稿をまず実行委員会まで。

5．見学会、その他の催し物

[119-51-01] 「ものづくり文化再発見！ウォーキング」報告 柳田哲雄

1．豊山コース 2012/11/11(日)開催

稲置街道をたどり、「川」の遺産と「卸売市場」を見て歩こう！

コースの概略：北区役所(スタート) ネックス・プラザ(名古屋高速管理事務所) 渡辺
染工所(名古屋友禅) 御用水跡街園 黒川樋門 元杵樋 庄内川
頭首工 味鋤神社&護国院 曲水宴 首切地蔵 楠地区会館

名古屋市中央卸売市場北部市場 愛知県営名古屋空港(ゴール)

参加者：129名

2. 蟹江コース 2012/11/24(土)開催

酒蔵、鉢花、漬物...。地場産品の現場と歴史&街道遺産

コースの概略：JR 関西線蟹江駅(スタート) (伝)信長街道 龍照院 御葎橋
飾橋 西尾張中央道歩道(中央道からの眺望) フラワーガーデン戸谷
佐屋川釣堀 足湯かにえの郷 まちなか交流センター 甘強酒造
(酒・味噌) 蟹江城址公園 歴史民俗資料館 井川商店(漬物)
JR 関西蟹江駅(ゴール)

参加者：102名

[119-51-02] 企画展「待望の水、水路を走る～竣工100周年を迎える近代化遺産・金山揚水～」

杉本漢三

金山揚水の機械設備。100年記念。中部産業遺産研究会協力。名鉄知立駅の近く。現在は住宅地。
二段膨張型賢型二段膨張気機。明治用水利用の水力発電。

1. 期日：2012/12/11(火)～2013/03/10(日)

会場：豊田市近代の産業とくらし発見館

2. ギャラリートーク：2012/12/22(土)・2013/01/19(日)、各日2回 10:00～・14:00～

3. 見学会：「金山揚水」(仮)2013/02/16(土)、定員：抽選20名

詳しくは、豊田市近代の産業とくらし発見館のホームページや、配付のチラシなどをご覧ください。

[119-51-03] 「2012年パネル展」

1頁の「第8回「2012年度パネル展」と講演会の開催について」や、配付のチラシをご覧ください。

[119-51-04] 「定例研究会で見方調べ方や調査研究報告予定及び見学希望の用紙記入のお願い」

大橋公雄

募集中。

6. 文献紹介、資料紹介()内は紹介者

【その他の資料】

[119-63-01] 「ニュースレター vol.92」名古屋都市センター (事務局)

[119-63-02] 「九州産業考古学会 会報第17号」九州産業考古学会 (事務局)

[119-63-03] 「G I H会報 No.87」岐阜産業遺産調査研究会 (事務局)

[119-63-04] 「ニュースレター vol.93」名古屋都市センター (事務局)

[119-63-05] 「G I H会報 No.88」岐阜産業遺産調査研究会 (事務局)

[119-63-06] 当日回覧「今、よみがえる愛岐トンネル群」300円 (山田 貢)

7. 出版広報事業

[119-71-01] インターネット <http://csih.sakura.ne.jp/> 左記です。時々見てください。

[119-71-02] 中部産業遺産研究会の本

8. 委員会、役員会、研究分科会

特になし

9. 総務・事務局関係

[119-91-01] 研究会スケジュール、関連団体スケジュール、他

・第121回例会・「日本の技術史をみる眼」第31回

2013/03/24(日) 13:00～ 名城大学名駅サテライト

・第21回総会・第122回例会 2013/05/26(日) 13:00～ 会場未定

[119-91-02] 会員異動 ()内は入会日・退会日

・入会：福井義光(2012/09/03) 神田年浩(2012/09/23)

・退会：福島靖幸(2012/11/02) 現行133名

・産業考古学会 2012 年度新居浜大会に参加して

寺沢安正

産業考古学会全国大会が 2012 年 10 月 6 日(土)～8 日(月) 新居浜市と共催で愛媛県新居浜市を中心に下記の通り開催された。

四国における初の全国大会で、四国を代表する産業遺産の別子銅山見学会など次のスケジュールで開催され参加したので、その概要を簡単に報告する。

「第 1 日目 別子銅山見学会」

- 1 日 程：10 月 6 日(土) 9：00～17：00
- 2 参加者：31 名、案内 2 名(新居浜市別子銅山文化遺産課)
- 3 行 程：別子銅山記念館～<東平(とうなる)地区見学 旧東平貯鉱庫・選鉱場、第三通洞・旧第三変電所など>～旧端出場(はでば)水力発電所～<堀越エリア 旧堀越駅舎、山田・西洋社宅など>～住友化学歴史資料館・病院など。

これら一部の産業遺産の概要を報告する。

(1) 別子銅山記念館

この記念館は 1975(昭和 50)年、別子銅山の意義を後世に伝えるため建設された。

1690(元禄 3)年に銅山峰の南側で露頭が発見され、翌年から住友によって採掘が始まった。開坑以来、江戸・明治・大正・昭和の 4 時代に亘る 282 年間、海拔 1,200m 地帯から海面下 1,000m まで掘り、72 万トン余の銅を産出した歴史資料が展示されている。

(2) 旧端出場水力発電所

1911(明治 45)年に出力 3,000kW の当時国内最大級の発電所。外観はほぼ創業当時のレンガ造りの建物で、ドイツ・フォイト社製のペルトン水車、シーメンス社製の発電機がそれぞれ 2 台残されている。



旧端出場水力発電所

(3) 住友化学歴史資料館

この建物は 1901(明治 34)年に住友銀行新居浜支店として建築されたもので、昭和 33 年まで使用され、その一部を改良し鉱山事業から派生した近代化学産業の発展がパネルなどで解説されている。

「第 2 日目 研究発表・市民公開講演会・特集セッション」

- 1 日程：10 月 7 日(日) 9：15～17：00
- 2 場所：新居浜ウイメンズプラザ
- 3 研究発表会

午前中、会員 7 名の報告があり、44 名が参加した。最後に黄俊銘氏から TICCIH 台湾大会の案内があった。

4 市民公開講演会

市民公開講演会として 51 名が参加された。佐々木龍・新居浜市長のあいさつの後に地元愛媛県の産業遺産に関する 4 件の講演があった。

市民参加者の中に、新居浜東高校ユネスコ部の生徒と先生が参加されていた。ユネスコ部は市内の産業文化遺産の研究や保全活動をしており、産業文化遺産が地元の誇りとして支えられていると感じた。

5 特集セッション(ヨーロッパの産業遺産をめぐって)

清水憲一理事の司会進行により会員 5 氏の発表があり、演者を交えてのパネルディスカッションが行われた。

「第3日目 松山市港湾見学会」

1 日程：10月8日（月）9：00～15：00

2 参加者：19名

3 行程：伊予鉄道港山駅・角田造船所～（市営渡し船）～三津浜地区くらしのゾーン～石崎汽船本社社屋～山谷運送部～瀬村製材所

4 概要

（1）角田造船所では服部長七の人造石（たたき）で作られたドライドックがある。また、三津港埠頭が竣工した時に「服部長七なる者に命じ人造石工法を多く用い・堅牢なる事天造の如し・」と記載された埠頭記が残されている。

（2）現役で使用されている石崎汽船本社社屋（有形文化財登録）の建物は、1924（大正13）年に建てられた鉄筋コンクリート2階建て、社長室などを特別に見学することができ、屋上からは港町の景観を一望することができた。また、向かいにある山谷運送部と書かれた看板のある建物も同時期に建てられた疑似洋風建築である。



石崎汽船本社建物

・15th TICCIH CONGRESS 2012 in Taiwan に参加して

石田正治

2012年11月4日から11月11日までの8日間の日程で、台湾にてTICCIH（国際産業遺産保存委員会）の第15回国際会議が開催された。国際会議の詳細と台湾の産業遺産については、『産業遺産研究』誌に報告することとして、ここでは、会議の概要とコングレスツアーの様子について述べる。

国際会議は、台湾という身近な国で開催されたこともあって、日本からの参加者は、これまでになく多数であった。事前登録した参加者は174名、この内27人が日本人であった。中部産遺研会員では、種田、天野、大島、大橋、松浦、寺澤、石田の各氏が登録されていたが、寺澤さんは体調を崩されて不参加であった。私（石田）は、天野さんといっしょに前日の11月3日から会議最終日の11月8日まで台北にいた。国際会議の会場は、国立台北科技大学と華山1914文創園區であった。セレモニー会場の華山1914は、日本人作った日本酒の醸造工場で1914年に完成した。その建物はイベント会場やレストラン、ショップなどに再活用されていて、産業遺産の保存・活用の好例と言える。以下、プログラムに添って概要を紹介しよう。



TICCIH 会場の華山 1914 文創園區

11月4日（日）は、午後からプレコングレスツアーがあり、台北市内の産業遺産を見学した。最初に見学したのは、再開発が予定されている台湾鉄道の車両整備工場であった。すでに郊外に新しい車両整備基地ができていて、移転することになっているとの話であった。跡地は、都市計画により再開発されることになっているが、半分くらいの建物群と内部の機械設備は保存されるとのことであった。次に訪れたのは、旧煙草工場であった。ここはすでに再開発されていて建物内部は、展覧会場などに使われていた。文化財となっているため、レストランなど火を扱う施設は入れないが、隣接して建て

られている巨大ホテルなどに観光者のための飲食店などが用意されるとの話であった。ツアーの印象としては、車両整備工場も煙草工場も台湾が日本の植民地であった時代の産業遺産であり、台湾というよりも日本の産業遺産ともいえるものであった。

夜は、華山 1914 で歓迎パーティがあり、関係者の TICCIH 開催についての並々ならぬ意気込みが感じられた。

11月5日(月) 国際会議の初日で、国立台北科技大学で開催された。午前中に、Sir Neil Cosson と Prof. Chao-Ching Fu の基調講演があった。午後は8つのセッションと2つのワークショップがあり、セッション1では、大橋さんが「絹の道の産業遺産」のテーマで発表している。

会議終了後、種田先生の呼びかけで、TICCIH 日本委員会が開かれた。次回国際会議まで種田先生が代表を務められることに決まった。それ以降は近畿大学の岡田先生に代表を引き継いでいただく予定とした。

11月6日(火) 2日目はコングレスツアーで、バス3台に分乗し、台中市に向かった。最初に訪れたのは、台中市では最初の(台湾全土では3番目)の放送局の建物を見学した。続いて、台中創造文化公園内の歓迎昼食会が行われた。ここでも台中市あげての熱烈な歓迎ぶりには驚かされた。この昼食会会場は、1916年設立の大正醸造会社の醸造工場で、1924年に煉瓦造の工場がこの地に作られている。多くの建物は、産業遺産として保存され、再活用されている。

昼食後、われわれ一行は彰化市(Changhua)に向かった。ここで砂糖工場見学と鉄道車両整備工場見学の2つのグループに分かれた。私は、鉄道車両整備工場を希望していたので、今も使われている転車台を見学することができた。人気の施設のように、転車台は一般公開もされていて、転車台全体が俯瞰できる見学台も設置されている。当日もTICCIH 関係者以外の一般の参観者も見られた。ここではTICCIH 一行のために、特別に蒸気機関車を動かして見せてくれた。機関車を動かすには、蒸気圧を上げなければならず、数時間前から釜を焚いて準備されている、と聞いた。動かした蒸気機関車はDT668号、日本の川崎車両が1941年に製造したもので、日本のD51形蒸気機関車と同型と見られる。



彰化市・鉄道車両整備工場の転車台と蒸気機関車

転車台の見学が終了し、再びバスに乗車、鹿港(Lukang)という古い港町に向かった。鹿港では、台湾の重要文化財(国定古蹟)に指定されている龍山寺を訪れた。到着すると寺の門前で太鼓演奏の歓迎を受け、さらに中庭では、茶の接待があった。龍山寺を見学後、中庭で夕食歓迎会が催された。

11月7日(水) 国際会議3日目、午前中にTICCIH 会長の Patrick Martin と伊東孝先生の基調講演があった。その後、午前中に4つのセッションが行われたが、そのひとつがスペシャルセッションで、日本の世界遺産候補になっている産業遺産についてのセッションであった。佐渡鉱山、富岡製糸場と関連遺産、九州・山口の鉱山関係遺産、佐渡鉱山絵巻の技術についての4件の発表があった。

午後は8つのセッションとワークショップが開催された。午後のセッションでは天野さんが産業遺産の分類について発表されている。

11月8日(木) 国際会議4日目、午前中はアジアの産業遺産協同フォーラム、午後にTICCIH 総会とポスターセッション、夕刻、国立台湾博物館の見学、その後お別れパーティが予定されていたが、私と天野さんは、帰国日のため会議の諸行事には参加できなかった。

空港にいくまでに若干の時間があったので、台湾の総督府と台北水道博物館を見学して帰路に就いた。



発表中の天野武弘会員

・台湾で開かれた TICCIH 本会議に参加して

大橋公雄

TICCIH を国際産業遺産会議と言われているが、台湾では国際工業遺産会議と呼んでいる。2012 年 11 月 4 日から 11 日の 8 間台北市を中心に開かれた。アジアで本会議が開かれるのは初めてである。世界各地から 180 名ほどが参加し、日本からは 27 名である。

会議の日程は次のようで、大変ハードスケジュールであった。

- 4 日 午後：台北市内の産業遺産見学、夜：歓迎パーティ
- 5 日 午前：開会式、講演、午後：4 部門の会議とワークショップを同時進行
- 6 日 台中までの小旅行（製糖工場と鉄道基地の二手に分かれた）
- 7 日 午前：講演、午後：4 部門の会議とワークショップを同時進行
- 8 日 午前：アジアの産業遺産協力の公開討論、午後：全体の集会、お別れパーティ
- 9 日～11 日 産業遺産の見学旅行（台北方面と台南方面の二手に分かれた）

中部産業遺産研究会からは、天野武弘、石田正治、大島一朗、種田 明、大橋公雄の 5 名である。会場の受付、案内、設営、通訳など台湾の学生、研究生など 120 名ほどのスタッフが活躍していた。特に中原大学の林先生や黄先生の活躍と門下生の学生が大勢いた。会場は国立台北科技大学を中心に行われた。会場にはパネル展示が日替わりのように台湾各地の産業遺産が紹介されていた。天野と大橋は会議で下記のテーマで報告した。

「日本における産業遺産のデータベース化と分類法の検討」天野武弘

「日本のシルクロードに残る蚕糸業の産業遺産 日本の近代化にはたした蚕糸業の重要な役割」
大橋公雄

6 日：台中の小旅行は鉄道機関区、酒造工場・台中放送局跡を再利用した施設など産業遺産の見学である。朝 8 時半から戻って来るのは 11 時ごろであった。見学に行った先々の歓迎ぶりは大変なもてなしぶりであった。



写真 1 = 鉄道機関区



写真 2：酒造工場跡の再利用

9～11 日：台南地域の産業遺産の見学旅行に参加したので見学地を紹介する。

9 日： 茶業改良場(南投) 木材積出駅(南投)

10 日： 阿里山鉄道(嘉義) 烏山頭ダム(台南) 塩博物館(台南)

11 日： 国立科学工藝博物館(高雄) 高雄港内の遊覧、高雄鉄道博物館
高雄港ふ頭倉庫アートセンター

見学会は朝早く夜遅くまで多くに産業遺産や施設を見せてくれるが疲れる。台湾の行政は日本の統治時代の広大な工場、倉庫、施設などを意識的に保存し再利用している。再利用することで地域の子ども、若者、大人たちが大勢集まり観光地になっている。施設の案内役は、英語と中国語の班に分か

れて説明をしている。私は英語が得意でないので現地の様子やガイド用パンフレットを見ながら聞いて理解するようにした。

会議や旅行を通じて日本人は交渉力に欠けると聞いた。それは英語で自己主張できないために相手の言うことに妥協してしまうとのこと。国際会議に参加するためには、英語力を高めないと交流や議論ができないことを痛感した。

次回の本会議は2015年フランスの北カレーで行われることが決まった。また、アジアの産業遺産のネットワークを造ることも決まったとのこと。TICCIHの会議に参加を希望される方は予定してください。



写真3：貯木池から材木運搬クレーン



写真4：阿里山鉄道を走ったSL



写真5：日本人技師による鳥頭山ダム



写真6：台湾独特の天日製塩による塩山



写真7：高雄鉄道博物館の案内役の学生



写真8：倉庫再利用アートセンター

・お知らせ

事務局より、住所・所属等が変更になった会員へのお願い
年度が替わるなどで職場や住所、電子メールアドレスが変更になった会員は、次の当会事務局までご連絡ください。

連絡は、次の4方法があります。 h.noguchi@uotushaji.co.jp、電子メール版ニュースレターをそのまま返信(天野副会長と橋本広報幹事にも同時に送られます) 自宅 FAX 052-453-5838、手紙や葉書。

会計幹事より、年会費納入について

2012年度の年会費の納入をお待ちしています。例会時に現金支払いも出来ませんが、担当者が欠席する場合がありますので、手数料が発生しますが下記の郵便振替や銀行口座をご利用ください。

個人の年会費は4,000円です。

[郵便振替] 口座番号：00840-1-174258 口座名：中部産業遺産研究会

[銀行口座] 三菱東京UFJ銀行 鳴海支店 普通預金 口座番号：1531266

口座名：中部産業遺産研究会 会計 市野清志

また、2011年度の未納の方も数名おられ、2年間未納の場合は退会となります。

問い合わせは、市野会計幹事(ichino82@tcp-ip.or.jp)または当会事務局までお願いします。

研究誌の編集より、『産業遺産研究』第20号について

論文・調査報告や研究ノートなど原稿を募集しています。原稿の締め切りは2013年3月末です。投稿予定の連絡は、浅野伸一幹事(s-asano417@rapid.ocn.ne.jp)または当会事務局までお願いします。

会報の編集より

編集委員の募集および、ご意見やご希望などお願いします。

産業遺産に関する情報・短信・文献紹介などお気軽にご投稿ください。投稿は郵送または電子メールでお送りください。写真には必ず撮影者と撮影日時を記載したメモを貼り付けてください。原稿はテキスト形式で作成していただくと編集作業がしやすいので、なるべくテキスト形式でお願いします。原稿送付先：野口英一朗 noguchi.d5@dion.ne.jp (アドレスにご注意ください。@の前にドット。)

電子メールをお持ちの会員で、橋本幹事から電子メールニュースが配信されていない会員は、メールにて、橋本幹事(hidekih@wine.plala.or.jp)までご連絡ください。すでに着信確認メールを出されている方は、再度送信いただく必要はありません。

中部産業遺産研究会会報 第49号

Newsletter of The Chubu Society For The Industrial Heritage Vol.49 2013-1

発行：中部産業遺産研究会

発行人：石田正治

発行日：2013年1月1日

編集委員：中住健二郎・橋本英樹・伴公太・野口英一朗

事務局：〒453-0014 名古屋市中村区則武2-34-12 シェルコ-ト則武502 野口英一朗気付
中部産業遺産研究会のホームページは、<http://csih.sakura.ne.jp/>です。

掲載記事の無断転載を禁じます。

Copyright 2008-2013 The Chubu Society For The Industrial Heritage, All rights reserved.

ACCESS MAP

名城大学名駅サテライト

名古屋駅前桜通ビル13階

● ユニモール地下街④番出口を出てすぐ

Copyright © 2007. Meijo University, All Rights Reserved.